



OKAYAMA UNIVERSITY ACADEMIC CAPITAL FOUNDATION 2022
令和4年度 岡山大学学都基金 活動報告書



岡山大学学都基金事務局
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL: 086-251-7009 FAX: 086-251-7294
E-mail: kikin@adm.okayama-u.ac.jp



岡山大学学都基金

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>



ご支援へのお礼とお願い



国立大学法人岡山大学長
那須 保友

岡山大学学都基金を通じて、本学の教育研究・社会貢献活動にご高配を賜り厚く御礼申し上げます。教育研究・社会貢献活動は、私たちが持続可能な社会を実現するために不可欠な要素であり、本学では教育研究を通じて、社会に貢献することを目指してまいりました。

近年、地球の気候変動が予想以上の速さで進行することによる大規模な自然災害や地球環境の悪化、また、ロシアのウクライナ侵攻に見られるような国際的な対立や格差の拡大など、多くの課題に直面しています。新型コロナウイルスに代表される感染症の拡大は、社会生活や経済活動に大きな影響を与えました。このような状況下でも、本学は研究や社会貢献活動を通じて、解決策の模索や支援に力を注いでまいりました。学都基金を通じていただいたご寄付は、学生支援、研究支援、困窮学生や留学生への生活支援、大学病院のコロナ対策支援など、多岐にわたる分野で有意義に活用させていただきました。お陰様で、本学の支援活動を継続できたことを、あらためて深く感謝申し上げます。

本基金に特定基金として「岡山大学共育共創コモンズ建設支援基金」を設け、多数の皆様からご支援をいただき、「岡山」の新たなシンボルを目指した木造建築の「共育共創コモンズ(OUX)」が2023年1月に完成いたしましたことを、心より感謝申し上げます。この建物は、本学が目指す「共育・共創の場」を実現するために、学生や地域住民が学びや交流を深める場として大変有効に活用させていただきます。

私は、先人の知恵と実績を受け継ぎつつ、未来に向けた改革を進める「不易流行」を信条とし、教育・研究の充実と産学官連携を加速し、大学のブランド力を高めることを目指しています。地域とともに発展し、社会に貢献するため地域社会との連携を強化し、大学の持てる知を最大限発揮することにより社会の課題解決に取り組んで参ります。本学の目指す大学像を「誇りと希望の学都」として、学生・教職員、企業など岡山大学と関わりを持つ全てのステークホルダーに幸せや充実感を与えられる拠点でありたいとの願いを込めています。

卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様方のお力添えのもと、引き続き岡山大学の発展に努めて参りますので、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

岡山大学学都基金について

■設置目的

岡山大学学都基金は、本学における学生支援、教育・研究活動、国際交流及び社会貢献活動の一層の充実を図るとともに、新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学の進展等に資することを目的として設置しました。

■設置経緯、募集開始

本基金は、2008年4月に設置された「岡山大学21夢基金」を再構築する形で2015年4月から募金を開始し、皆さまのご支援をお願いしております。

■管理運営方法

岡山大学学都基金管理運営委員会で事業計画などを審議し、その決定に従って支出します。基金の運営状況については、岡山大学学都基金のホームページで公開します。

■支援事業について

岡山大学学都基金全般へのご寄付については、主に以下の事業支援のために活用させていただいております。

- 学生支援に関する事業
- 地域振興・社会貢献活動への支援事業
- 教育・研究活動への支援事業
- SDGs推進に関する支援事業
- 国際交流活動への支援事業
- その他基金の目的達成に必要な事業

また、以下の事業指定がある場合には、ご寄付の趣旨に沿った事業支援のために活用させていただきます。

【特定基金】

- 修学支援基金(税額控除制度対象)
- 研究等支援基金(税額控除制度対象)
- 異分野基礎科学研究所次世代革新科学技術展開支援基金
- 岡山大学共育共創コモンズ建設支援基金(終了:2022年8月31日)
- 新型コロナウイルス感染症関連支援基金(終了:2023年3月31日)



岡山大学共育共創コモンズ建設支援基金

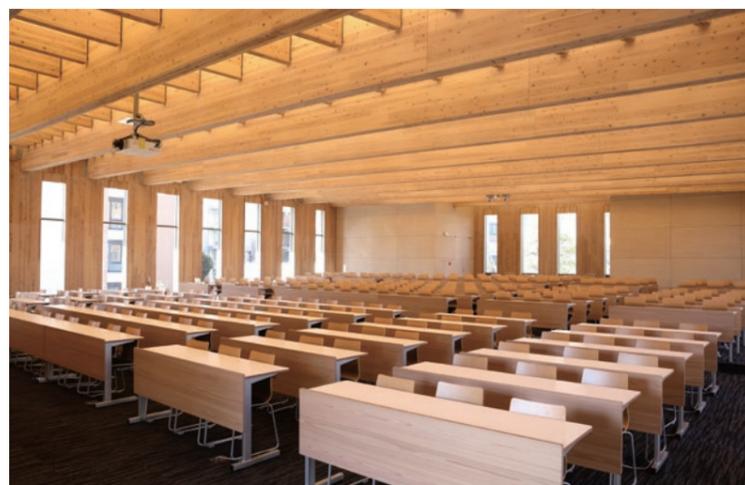
2023年1月に、カーボンニュートラル・脱炭素社会に貢献する木材系素材CLTを活用した「共育共創コモンズ（※愛称OUX（オクス）」が、完成しました。世界的な建築家であり、岡山大学の特別招聘教授である隈研吾先生が設計・施工管理を監修したこの建物は、●岡山大学の「OU」と共育・共創の交流を表す「X」●最適なユーザーエクスペリエンスを提供する場 ●「オーク(樫・檜)」や「大楠」を連想させ、岡山のシンボルツリーたる大樹をイメージという3つの想いが込められています。

この2階建ての建物は、300人収容の大講義室と研究スペースがあり、「みんなのイノベーション空間」として学びあい交流ができます。1階には、オープンな共同プロジェクトから機密性の高い共同研究まで、フレキシブルに対応できる産学共創スペースがあり、木造CLTパネルを活用した最先端の工法を視覚的にも体感できる建築教育の教材でもあります。持続可能な社会へSDGsを推進する岡山地域のシンボリックな建物となることを期待しています。

「地域の産業活性化のための新たな交流と共創の場」というコンセプトのもと、岡山大学の学生が学びながら地域や企業との協働を一層充実させ、岡山から世界に新たな価値を創造していきます。

建設にあたり、多くの方々からご支援いただきましたことを心より感謝申し上げます。

プロペラ モニュメント(2階講義室内)▶



▲2階講義室内



▲寄付者銘板(2階講義室内)



新型コロナウイルス感染症関連支援基金

本学では、2020年度より新型コロナウイルス感染症関連の緊急支援を行っていましたが、この度緊急支援を終了することになりました。多大なご寄付をいただき、修学支援、大学病院支援、研究支援などの様々な取り組みを実施することができました。これまで皆さまからいただいたご支援に心から感謝しております。今後も引き続き本学をよろしくお願いいたします。

大学病院 遺伝子解析装置導入

新型コロナウイルス感染症第7波の感染拡大により、夜間や休日のPCR検査件数が増加し、臨床検査技師の業務負担が増大しました。このため、院内のPCR検査体制を強化し、医療職員の業務負担を軽減するために、現行装置よりも検査時間が大幅に短縮できる装置(コバスLiat)を導入しました。

本事業の成果

2022年9月から3月末までに、1,273件のPCR検査を実施しました。夜間や休日の救急外来患者のPCR検査は、約6割をコバスLiatで実施し、検査時間を大幅に短縮し、医療職員の業務負担を軽減できました。

遺伝子解析装置(コバスLiat)▶



保健管理センター 学内での迅速な感染検査による安全・安心確保

津島地区、鹿田地区、倉敷地区、三朝地区の事業場において、市販の抗原定性検査キットを備え、新型コロナウイルス感染症対策として、感染が疑われる学生や教職員(濃厚接触者を含む)に配布し、各自で迅速に検査を行うことにより、感染拡大を防止しました。

本事業の成果

感染が疑われる学生や教職員に対して、迅速に検査を行うことで、学内の安全と安心を確保し、感染の拡大を防止することができました。

抗原定性検査キット▶



新型コロナウイルス感染症関連研究支援

本学では、学都基金から以下の研究支援を行っています。

- ①新型コロナウイルス感染症に関するワクチン・治療薬の研究開発
- ②同感染症の治療方法、診断方法、検査体制等の研究
- ③その他同感染症を克服するための研究

■COVID-19肺炎の重症化抑制を目的としたテブレノン療法の第II相ランダム化比較探索的臨床試験
岡山大学病院 講師 市原 英基

■ラドン療法による新型コロナウイルス感染症の予防と症状改善に関する基礎的研究
学術研究院保健学域 教授(特任) 山岡 聖典

■COVID-19に対するポータブルシールドの作成
学術研究院医歯薬学域 教授 中尾 篤典

■人工知能を用いた新型コロナ肺炎の画像診断システムの検討
学術研究院医歯薬学域 教授(特任) 河原 祥朗

■新型コロナウイルス変異株の検出系の構築事業
学術研究院医歯薬学域 教授 本田 知之

学都基金を活用した学生支援・研究支援

大学院博士後期課程学生支援

本事業では、入試成績が優秀な博士後期課程の学生を対象に、以下の給付型奨学金を支給することにより、大学院博士後期課程への進学を促しました。

●岡山大学大学院博士後期課程就学支援奨学金(計18人)

支給対象:2019年4月以降に優秀な成績で入学した日本国籍又は日本国の永住権を有する博士後期課程の学生
支給額:年額60万円

●岡山大学大学院博士後期課程遠隔地社会人学生支援奨学金(計6人)

支給対象:2019年以降に優秀な成績で入学した遠隔地から通学する社会人学生
支給額:1人あたり月額1~2万円(職場又は自宅から大学までの距離に応じた額)

本事業の成果

本事業は、博士後期課程への志願者数増加を目的として2019年度にスタートしました。本事業単独の評価は困難ですが、実施対象の研究科の入学定員充足率は緩やかに上昇しています。

感謝の声 リモート併用での研究活動

コロナ禍をきっかけに、オンラインを活用しての仕事と博士後期課程の研究の両立を試みてきました。東京で仕事をしているため、定期的にオンラインで研究相談や進捗報告を実施しています。ですが、大学の研究室に来て、対面でのディスカッションをした際には、直接話すことは大変重要だと痛感しました。授業履修メインではなく自分の研究テーマを業務の合間に進めていくため、モチベーションの維持が課題のひとつです。そのため、ご支援をいただくことで通学や学会参加の負担が軽減され、先生との議論や他のゼミ生や留学生との交流機会を持つことができている。大変貴重なご支援に感謝しておりますし、今後学位取得を目指す社会人学生の方のためにも、ぜひ継続していただけますと幸いです。より社会に貢献できるように、今後も社会人学生として研究活動に取り組んで参りたいと思います。

環境生命科学研究科 博士後期課程 2年(支援時)

学都基金奨学金(学部学生への修学支援)

本学の教育活動の推進及び経済的支援を行うことを目的として「学都基金奨学金」を創設し、2022年10月入学のグローバル・ディスカバリー・プログラム学生10人に授業料半額1人約14万円(2022年度後期の授業料相当額の2分の1)の奨学金を支給しました。

本事業の成果

入学後にアルバイトが困難な状況で経済的に厳しい状況にある留学生に対して、奨学金を支給することで修学環境を改善し、また優秀な留学生を確保することができました。



▲授業風景



▲入学式の様子

感謝の声 定住しやすくなり、様々な新しい体験ができるようになりました

私は、岡山大学学都基金からいただいた奨学金に心から感謝の意を表したいと思います。私は、このような経済的支援を受けられるとは思っていませんでした。私は荷物一つで来日したので、最初の2、3ヶ月は衣類、台所用品、セルフケア用品を買い揃えるのにかなりの費用がかかりました。いただいた奨学金で、生活必需品を購入することができました。

また、この国に到着したときの私の小さな夢は、ビーチに行き、そこに座って海と夕日を眺めることでした。その夢を実現することができました。本当にきれいでした。奨学金のおかげで、私は留学生として日本に定住し、経済的なストレスをかなり軽減して、日本での生活を楽しむ機会を得ました。本当に、ありがとうございました。

グローバル・ディスカバリー・プログラム1年(留学生)

学内ワークスタディ事業支援

本事業では、非常勤職員として学生を学内業務に従事させることで、職業意識及び職業観を醸成すると同時に、社会人として必要なスキルを育成することで経済的支援を行いました。

学都基金からは、①学生支援業務、②外国人留学生支援業務、③附属図書館窓口等業務の一部、④学内出土文化財を活用した調査整理業務、⑤研究補助業務の一部に支出が充てられました。

本事業の成果

本学非常勤職員として学生を雇用し、職業意識や職業観の形成を促進しました。実務に従事することで学生のチームワークやコミュニケーション能力、学内業務の理解、責任感の形成を促したほか、ワークスタディ学生の勤務により、各部署の業務効率化や活性化が図られました。

学生からの感謝の声

【学生支援業務】

私は1年間、留学生相談室の運営のお手伝いをさせていただきました。主な仕事内容は、留学生のオリエンテーション後のイベントへの参加やSNSの運営です。コロナ渦のためこれまでは大学でのつながりが多くありませんでしたが、このお仕事を通し、先生方や他学部の学生の皆さんとの新しいつながりができたことに深く感謝しています。SNSの運営では、留学生に向けて身近な日本語を紹介したり、日本の文化や開催予定のイベントについてなど役に立つ情報を写真と文章で発信しました。これにより英語の文章を書く機会が増え、文章を書く練習となりました。またSNSの投稿づくりは場所を選ばず行えるので、大学から家が遠い私でも苦に感じることなく働くことができました。手の怪我により大学外でのアルバイトが思う様にできなかった時期がありましたが、ワークスタディからの収入が得られたので経済面でも助けになりました。ありがとうございました。

工学部 化学生命系学科 3年(支援時)

【外国人留学生支援業務】

いい経験になりました！私は2022年4月に国際同窓会(OUIAA)のワークスタディスタッフとして国際部で働きました。国際同窓会で働くという新しい体験が始まることに、とても楽しみにしていました。国際部で働いてから、いろいろな経験ができると思うと、とてもうれしかったです。しかし、完全に日本的な環境で仕事をするのは初めてだったので、とても緊張もしました。また、自分の日本語能力で大丈夫なのかという不安もありました。OUIAAで働き始めてから、私の最高の経験のひとつは、大学の学生や卒業生のためのイベントを企画し、開催することができたことです。コミュニケーション、協調性、創造性、リーダーシップ、忍耐力など、さまざまな能力を発揮し、向上させるのに役立ちました。また、OUIAAで働くことで、日本文化への理解も深まり、今後の日本での生活にも役立つ知識が身についたと思います！大学生活でこのような職場での仕事を体験できたことをうれしく思います。この1年はあっという間でした。このような機会を与えてくれたOUIAAの皆さんに感謝しています！楽しく学ぶことができました！

グローバル・ディスカバリー・プログラム(外国人留学生)4年(支援時)

岡山大学校友会クラブ活動支援

本事業では、岡山大学校友会の各クラブの活動において、各クラブ独自の部費では賄うことが難しい施設・設備の補修や物品・機材などの購入を中心に学都基金から支援しました。以下は支援した内容の一例です。

- ▶空手道競技用デジタルタイマーを購入し、本学主催の空手道大会の運営を円滑に行うことができました。
- ▶ヨット部が使用する救助用ボートの整備(エンジン修理)を行い、練習中の安全性を高めることができました。
- ▶硬式野球部が円滑に練習や試合を行えるよう、野球場黒土を購入しました。
- ▶交響楽団用のバイオリンを購入し、練習が円滑に行えるようにしました。
- ▶文化系クラブ棟内音楽室の壁パネル張替えおよび破損部分の修繕を行い、防音効果を高めることができました。
- ▶その他、ウエイトトレーニング部のトレーニング棟内にあるダンベルを購入し、女子ラクロス部にテニス用審判台と頭部保護用ヘルメットを購入するなど、さまざまな支援を行いました。



▲空手競技用のデジタルタイマー(試合で使用)【空手道部】



▲整備した救助用ボートでの練習風景【ヨット部】



▲野球場に整備された黒土【硬式野球部】



▲購入したバイオリンを使っている練習風景【交響楽団】

学生からの感謝の声

【空手道部】 デジタルタイマー購入にあたってのお礼

この度、「空手競技用デジタルタイマー」の資金に関しましてご支援いただき感謝申し上げます。

大会運営では2コート分の試合用品が必要となり、デジタルタイマーのみが不足しており高額商品であったためご支援頂く流れとなりました。大会運営ではスムーズに試合を進行することができ、練習でも効率的で多様なトレーニングを行うことができております。

【ヨット部】 救助用ボートの整備費用援助のお礼

救助用ボートのエンジン修理を援助してくださりありがとうございました。ヨットは自然を相手にするスポーツのため、ときに危険な場面もありますが、救助用ボートがあることで安全に活動することができます。また、海上での乗員交代やマークの打ち変えなどの役割もあり、我々の練習に必要不可欠なものです。救助船の不調は練習効率を著しく低下させ、安全面でも懸念しておりました。援助してくださったこと、部員一同、心より感謝申し上げます。

【硬式野球部】 黒土購入のお礼

今回、学都基金事務所様のご支援、大変ありがとうございます。購入させていただきました海砂、黒土を硬式野球部はグラウンドの環境整備に使わせていただいております。これから気温も暖かくなり、岡山大学野球場で試合をする機会も増え、4月からはリーグ戦も始まるため、よりよい環境で練習、試合をさせていただくことに感謝を忘れずに、チームとしてレベルアップを図って参ります。これからも応援の程よろしく願いいたします。

【交響楽団】 バイオリン購入のお礼

岡山大学交響楽団では貸出用の楽器が不足しており、今年度の初心者への入部が困難な状況であった為、今回楽器を購入させて頂く運びとなりました。楽器の選定につきましては、当団では質の高い演奏を追求しております故、最低限のパフォーマンスが発揮可能だが格安であった商品を購入させて頂きました。

最後となりましたが、この度の当団へのご支援に、団員一同深く感謝申し上げます。これからもより一層演奏技術の向上に努めて参ります。

グローバル人材育成特別コース支援

グローバル人材育成特別コースを履修する学生で、海外留学、海外研修等の海外派遣により、所定の申請資格を満たした者に対して、グローバル人材育成院で審査および支給決定を行い、奨学金を支給しました。

本事業の成果

グローバル人材育成特別コースでは、コロナ禍で奨学金事業が不可欠になっています。留学意欲の向上だけでなく、留学を通じてグローバルな視野を身につけ、将来的に世界に貢献できる人材としてキャリアデザインを描きかけとしても大きな成果がありました。



▲留学先のラボで研究活動に取り組む様子(ロードアイランド大学:アメリカ)



▲映像を作成する授業の様子(成均館大学校:韓国)

学生からの感謝の声 コロナ禍でもあきらめずに臨んだ留学で研究インターンシップを体験

僕たちの学年は入学した途端にコロナ禍に突入したため、授業もオンラインが中心のキャンパスライフを送っていました。入学した当初から留学をしたいと思い、TOEICの勉強や日々の授業に励んでいましたが、3年生の春までは留学に行けるかどうかは正直分からないような状況でした。しかし、自分から行動を起こしてみると、多くの方々のご協力のおかげで、工学部の留学プログラムHUGで、アメリカのロードアイランド大学に研究インターンシップという形で留学することができました。『海外の大学の研究室』という環境は、自分にとって大きな刺激になりました。さまざまな経験をすると同時に、自分の力不足も感じ、あらためて研究への意欲をかきたてられました。日本に帰国後も、留学時に身につけたスキルを活かして、学習を続けています。そして来年からは大学院に進学して、専門知識や研究技術をもっと磨いて真摯に研究に取り組みたいと考えています。この留学は大きな挑戦でしたが、自分にとってかけがえのない経験になりました。奨学金のご支援をいただきありがとうございました。

グローバル人材育成特別コース所属 工学部機械システム系学科3年(支援時)

ダイバーシティ&インクルージョン推進活動支援

本事業では、女性研究者の教育・研究力向上を目的に支援を行いました。若手女性研究者の国際的な活躍を促進するための費用助成や共同研究シーズの開拓を奨励し、女性研究者の研究力向上を目的として、学都基金から支援しました。

本事業の成果

女性研究者が自ら企画した国際シンポジウムや国際学会での発表、若手研究者への研究費助成により、研究展開の成果を得ることができました。これらの成果は、共同研究や論文投稿など、研究者としてのキャリア発展にもつながりました。



▲女性研究者が自ら企画した国際シンポジウム:「第二回植物マイクロバイオータ研究会シンポジウム」開催(2022.8.22)



▲女性研究者の海外派遣:マレーシアの中等教育学校を訪問した様子(2022.12.9)

感謝の声

「第二回植物マイクロバイオータ研究会シンポジウム」を開催。本シンポジウムで取り扱った「マイクロバイオータ」という研究分野はまだ新しい部類の分野であり、特に日本国内ではマイクロバイオータを体系的に扱う研究者は多くありません。そのような中、本シンポジウムでは企業の研究者も含めた4人の講演者、そして22題のポスター発表、総合討論を実施し、登録者218人、瞬間最大視聴者数162人と、多くの方にご参加いただき、大変盛況な会になりました。私自身の研究においても、本シンポジウムで得られた情報や人脈を活かして、今後マイクロバイオータを取り入れた実験を開始する予定です。

資源植物科学研究所 助教(特任)

感謝の声

2022年12月2日から14日、マレーシア国際イスラーム大学を訪問した成果は3点あります。1点目は、研究に対する評価を得られたことです。今後は他のイスラーム教国では評価が異なるか比較調査していきたいと考えています。2点目は、STEM教育実践についての知見を得られたことです。教育担当者に実践方法や課題について直接質問できる貴重な機会となりました。習得には手を動かした実技が重要であり、それを可能にするにはある程度設備投資が必要であることが明らかになりました。3点目は、マレーシアとの国際交流の発展へとつなげられたことです。グローバル人材育成のためのインターンシップ先としても適しており、今後はマレーシアと岡山大学の国際交流をさらに深めていく予定です。

学術研究院社会文化科学学域 助教(特任)

留学生支援事業等(旅費・行事費等)

本事業では、留学生が実際に体験を通じて、日本の歴史や文化を学び、さらに岡山についての知識も習得することを目的とし、旅費、行事費などを学都基金から支援しました。

本事業の成果

留学生が岡山県内の地域を訪問することで、地域住民が集まり、日本文化や農産物を紹介する機会が生まれました。留学生は訪問先の土地の文化や風習を学び、地域の活性化に貢献しました。本事業を通じて、留学生は現地で五感を通じて日本文化を体験することができました。



▲ニンニク収穫と日本文化体験(井原市)



▲ふあっしょんたうん児島(倉敷市)



▲餅つき体験(新庄村)



▲高梁まちあるき(高梁市)



▲尾道の歴史と文化体験(尾道市)



▲お正月体験(矢掛町)

学生からの感謝の声

このイベントはとても素晴らしい。地域の人々がとても優しく丁寧な対応をしてくれた。農業を通して日本文化に触れることができとても幸せだ。日本の農村地域は自然がたくさんあり心が開放的になりいい経験ができた。

GDP学部 1年(支援時)/EPOK(留学生)(支援時)/自然科学研究科 修士課程1年(支援時)

金光基金顕彰事業

故金光富男氏(本学2期卒業生)からいただいた寄付金をもとに、2018年に岡山大学学都基金「金光基金」を設置し、特に優秀な大学院生及び学部学生を顕彰することを目的として金光基金顕彰事業(金光功労賞、金光奨励賞、金光賞)を実施しています。*金光奨励賞は2021年度から実施

【金光功労賞】本学や社会に貢献し、顕著な功績や善行のあった同窓生及び退職者を含む教職員を対象として顕彰

【金光奨励賞】本学や社会に貢献し、顕著な研究成果等を上げた同窓生又は教職員(区分1)、他の教職員の模範となるような実践により特に顕著な成果を上げた同窓生又は教職員(区分2)(いずれも団体を含む)を対象として顕彰

【金光賞】博士課程・博士後期課程に在学中で、顕著な研究業績等を上げた大学院学生、学業成績が優秀で留学等の国際的な活動に優れた学部学生を対象として顕彰



▲第5回金光賞授賞式の様子



▲第5回金光功労賞・第2回金光奨励賞受賞者

受賞者一覧

(敬称略)

第5回金光功労賞被顕彰者

| 所属・職名 | 氏名 |
|---------------|------|
| 異分野基礎科学研究所 教授 | 沈 建仁 |

第5回金光賞被顕彰者(学部学生:14名、大学院生:7名)

| 学部 | 氏名 | 研究科 | 氏名 |
|---------------|---------------------------------|------------------------|----------------|
| 文学部 | 出口 杏奈 | 教育学研究科(修士課程) | 梅本 菜央 |
| 教育学部 | 浅野 ひかる | 社会文化科学研究科(博士後期課程) | ZHOU XINGXING |
| 法学部 | 井上 倅希 | 自然科学研究科(博士後期課程) | 大坪 秋人 |
| 経済学部 | 奥井 伊織 | 保健学研究科(博士後期課程) | 榎 卓也 |
| 理学部 | 竹谷 浩鷹 | 環境生命科学研究科(博士後期課程) | AKTER Fahmida |
| 医学部 | 奥村 理見 | 医歯薬学総合研究科(博士後期課程) | MAY WATHONE OO |
| 医学部 | 吉田 有沙 | ヘルスシステム統合科学研究科(博士後期課程) | 周 聖力 |
| 歯学部 | 奥田 花鈴 | | |
| 薬学部 | 内山 充佑 | | |
| 薬学部 | 中西 里佐 | | |
| 工学部 | 尾上 凜空 | | |
| 環境理工学部 | 茨木 克博 | | |
| 農学部 | 堀田 望未 | | |
| マッチングプログラムコース | VIZCONDE Nicole Angeline Robles | | |

第2回金光奨励賞被顕彰者

【区分1】(個人)

| 所属・職名 | 氏名 |
|--------------------|-------|
| 学術研究院環境生命科学学域 研究教授 | 赤木 剛士 |

【区分2】(団体)

| 団体名 | 代表者氏名 |
|------------------------------|-------|
| 新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種プロジェクトチーム | 樋口 千草 |
| 総務・企画部広報課 | 三村 涼子 |

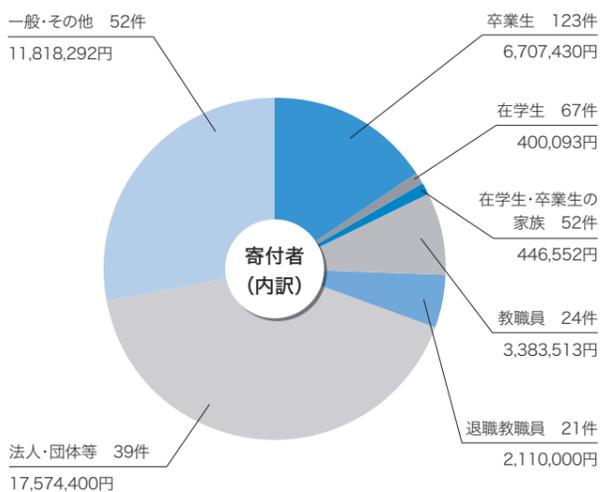
岡山大学学都基金 実績報告 [寄付額]

岡山大学学都基金にご寄付を賜り誠にありがとうございます。この寄付は、ご寄付の趣旨に沿った本学の様々な活動を支える財源として活用させていただくとともに、学生支援、教育・研究活動、国際交流、社会貢献活動の一層の充実を図るための事業を支援いただいております。

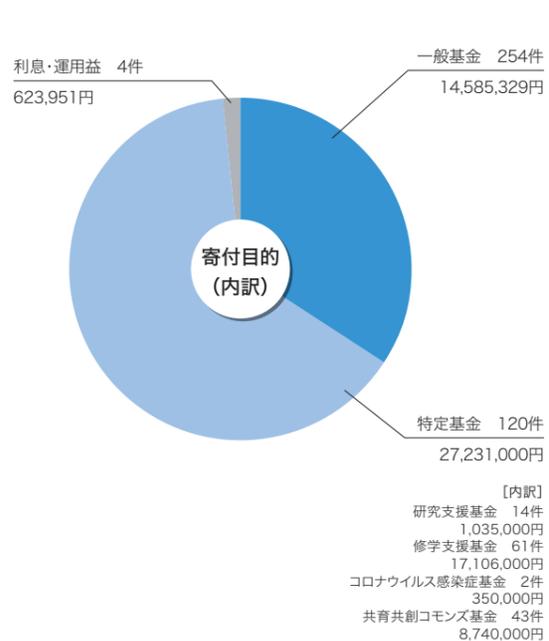


令和4年度収入

■寄付者(内訳)

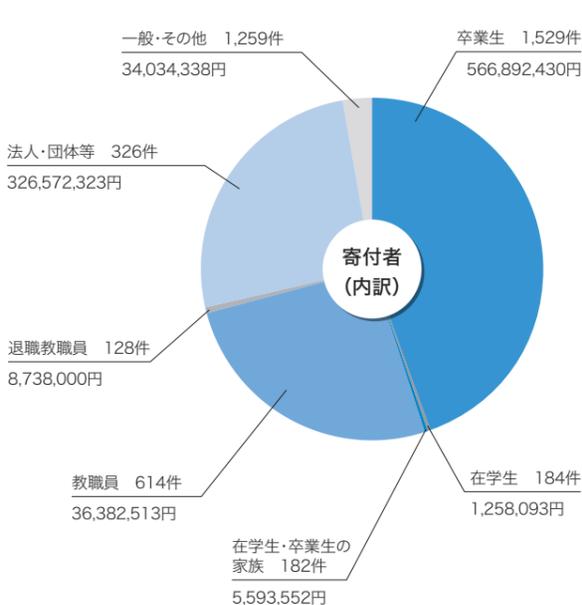


■寄付目的(内訳)

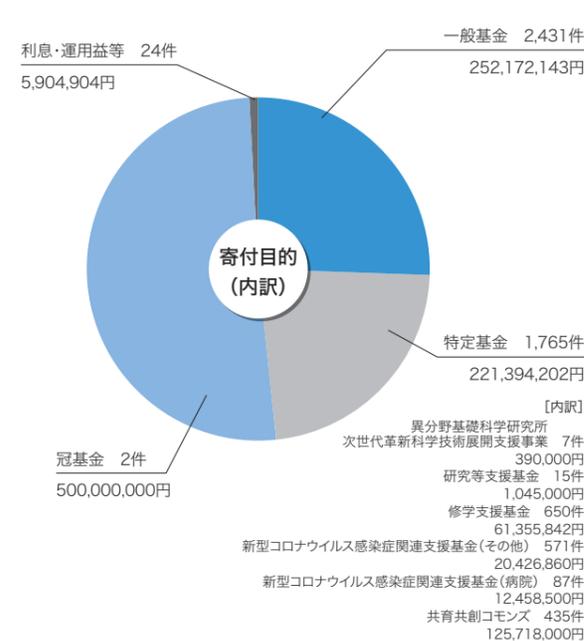


累計

■寄付者(内訳)



■寄付目的(内訳)



岡山大学学都基金 実績報告 [支出額]

令和4年度において、学生支援、研究支援、困窮学生支援、留学生生活支援、大学病院のコロナ対策支援など、多岐にわたる支援を行うことができました。また、岡山大学共育共創コモンズにも支援を行いました。今後も、ご寄付の趣旨に沿った事業支援を行い、学生や研究者のサポートを継続して行ってまいります。



■一般基金 15,622,606円

- 学生支援に関する事業
- 教育・研究活動への支援事業
- 国際交流活動への支援事業
- その他基金の目的達成に必要な事業
- その他基金の目的達成に必要な事業 (SDGs情報発信に向けての連携事業)
- 21夢基金整備事業

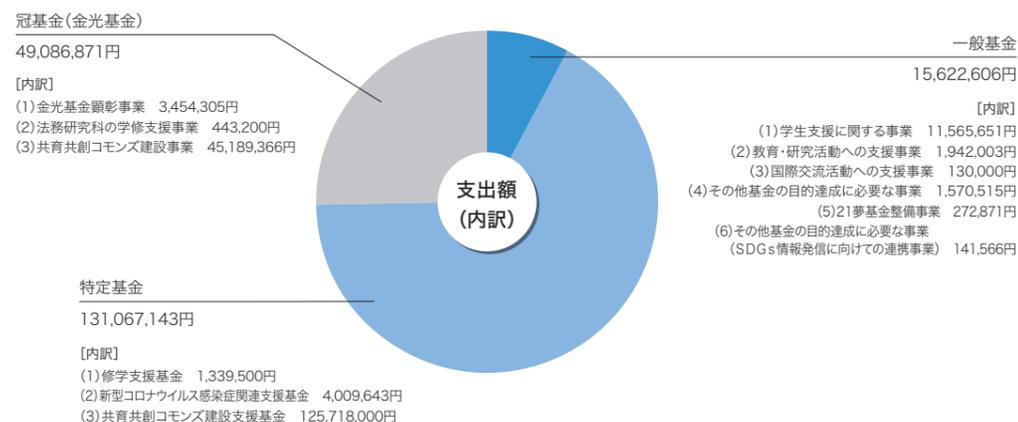
■特定基金 131,067,143円

- 修学支援基金
- 新型コロナウイルス感染症関連支援基金
- 共育共創コモンズ建設支援基金

■冠基金(金光基金) 49,086,871円

- 金光基金顕彰事業
- 共育共創コモンズ建設事業
- 法務研究科の学修支援事業

支出



ご厚意への感謝について

ご芳名の掲載

ご寄付いただいた皆さまのご芳名を、感謝の気持ちを込めて岡山大学学都基金のウェブサイトに掲載させていただきます。公表を希望されない方については掲載しておりません。

銘板の掲示

一定額以上ご寄付いただいた皆さまのお名前を、岡山大学創立五十周年記念館の銘板に刻み、末永く顕彰させていただきます。



岡山大学学都基金寄付者御芳名(銘板)▶

| プレート | 個人 | 法人・団体等 |
|--------|-----------|-----------|
| ダイヤモンド | 1,000万円以上 | 2,000万円以上 |
| プラチナ | 500万円以上 | 1,000万円以上 |
| ゴールド | 100万円以上 | 500万円以上 |
| シルバー | 50万円以上 | 200万円以上 |
| ブロンズ | 10万円以上 | 50万円以上 |

感謝の集いへのご招待

個人20万円以上、法人・団体等100万円以上のご寄付をいただいた皆さまを、感謝の集いにお招きし、感謝の楯を贈呈いたします。



感謝の楯▶

紺綬褒章

紺綬褒章は、国の褒章制度のひとつで、公益のために国、地方公共団体又は公益団体に私財(個人500万円以上、法人・団体1,000万円以上)を寄付した方に授与されるものです。本学では、ご寄付者のご意向を確認させていただき、文部科学省に申請することとしています。

お知らせ

令和5年度事業計画

令和5年度は、以下の支出計画のもと、事業支援を行って参ります。

【学生支援に関する事業】

- 博士後期課程大学院生支援
- 学都基金奨学金
- 学内ワークスタディ事業支援
- 岡山大学校友会クラブ活動支援

【教育・研究活動への支援事業】

- 若手研究者海外渡航支援等
- 岡山大学ダイバーシティ&インクルージョン推進活動支援

【国際交流活動への支援事業】

- グローバル人材育成特別コース支援 [学部生の支援(奨学金等)]

ご寄付の方法

払込取扱票によるご寄付

本学指定の「払込取扱票」に必要事項をご記入のうえ、ゆうちょ銀行の窓口または払込機能付きATMからお振込みください。別途、「払込取扱票」をお送りいたしますので、岡山大学学都基金事務局までご連絡ください。

オンライン決済によるご寄付

岡山大学学都基金のウェブサイトから、オンライン決済(クレジットカード決済・コンビニ決済・ペイジー決済)によるお手続きが可能です。

岡山大学学都基金 🔍 検索



遺贈によるご寄付

遺贈による寄付制度は、資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々に対して、本学が金融機関と提携して手続きの便宜を図らせていただく制度です。本制度のご利用を希望される場合は、岡山大学学都基金事務局までご連絡ください。

提携金融機関：三井住友信託銀行、中国銀行

リサイクル募金のご案内

いつものお片付けで岡山大学をご支援ください。

リサイクル募金とは

皆さまから不用品をご提供いただき、その査定換金額を岡山大学学都基金に寄付する取り組みです。申込受付から査定・報告および送金は「リサイクル募金きしゃぼん」が担当します。

お申込み・お問い合わせは「きしゃぼん」へ

岡山大学 リサイクル募金 🔍 検索



お伝えください
団体 ID

88

https://kishapon.com/okayama-u/

☎ 0120-29-7000 (受付9~18時)

運営協賛：リサイクル募金きしゃぼん(嵯峨野株式会社) 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

受付品目

次の方が気持ちよく使用できるきれいなものをお送りください。下記以外のものはお問い合わせください。

※査定額は中古市場価格(需要と供給)で決まるため、状態が良くてもお値段がつかないこともあります。

切手・ハガキ・テレカ

ホビー カメラ・フィギュア・トレカ

ブランド品・時計

貴金属 金・プラチナ含む



本

値段がつきやすい本
・ロングセラー
・いま話題のもの
・専門書・実用書
・コミックセット

DVD・CD・ゲーム

蒸留酒

万年筆・骨董・絵画